

## 児童生徒の作品⑤

### ～夏休みの体験等～

校長 森 勝義

4年2組 「一つの花」感想文

スミスシャーロット

わたしは、お父さんが戦争に行くまえに、ゆみ子にコスモスの花をわたしたところが心にのこりました。

お父さんは、ゆみ子にもたった一つしかない命を大切にしてほしいという思いをこめて、ゆみ子にコスモスの花を一輪わたしました。この場面が心にのこったのは、お父さんがゆみこを大切に思う気持ちがつたわってきたからです。

この物語で作者は、命の大切さを言いたかったのだと思います。

齋藤航太郎

ぼくは、「一つの花」を読んで、なんども出てくる「一つだけ」という言葉とコスモスの花の場面が心にのこりました。

ゆみ子は、お母さんの「一つだけよ」という言葉をまねして、いつも「一つだけ」と言っていました。戦争中は、食べ物もほしい物も少ししかないのがあたりまえで、ゆみ子は本当はもっともっとほしいと思っていたと思います。小さな子がそんなにがまんしているのを考えると、かわいそうになりました。お父さんが戦争に行く前、「一つだけあげよう。」と言って一輪のコスモスの花をゆみ子にあげました。これまでの「一つだけ」とはちがって、「大事な物だよ。」という気持ちがこめられていると感じました。さいごの場面で、一輪だったコスモスがいっぱいになって、家を包んでいます。花だけではなく、食べものも「一つだけ」とがまんしなくてよくなっていることがたくさんのコスモスの花でわかります。

このお話を読んで、ぼくは、「一つだけ」という言葉にこもった気持ちを考えました。そして、なんでもがまんしなくていい今のぼくたちは幸せだと思いました。

5年夏休み課題「きいて、きいて、きいてみよう」

5年1組 飴谷 愛

私は絵を書くことが好きで、よくタブレットなどで絵をかいていました。ですが、かいている時にぎ問に思うこともありました。例えば、ラフ画像をかくときは、線をまっすぐにしたほうがいいのか、まっすぐじゃないほうがいいのか、目の色は暗い色を先にぬったほうがいいのか、などです。

そこで、ユーチューブで画像をかいたりするショート動画をあげている人のコメント欄でしつ問をしてみることにしました。私がおもっていた例にあげたしつ問に対し、ラフ画像は線をなるべくまっすぐにしたほうがよく、目は明るい色を先にぬったほうがよいと教えてくれました。

しつ問をした後、こういうぎ問を持ったときには、人に聞くのが一番だけれど、自分で答えを見つけられるようになりたいとも思いました。そして、人から助けを求められたときは、自分が分かっていることをもとに、分かりやすく教えてあげることができるようになりたいと思いました。

私はこの本を読んで、戦争が終わったあとも、その戦争を経験し他人たちの中にはその記憶や体験が一生あって、それが終わることはないのだなと感じました。建物や街は元通りになるかもしれないけど、心の中に残るものはそう簡単には消えないのだと思いました。

この話は、昔同じ学校に通っていた五人の女性たちが、何十年ぶりに母校を訪れるところから始まります。その中のきぬ子さんのエピソードがとても印象に残りました。戦争の後、焼け跡から拾った彼女の両親の骨を赤錆びた空缶に入れて持ち歩いてたという話です。しかも、それを学校にまで持っていったと知ったとき、とても悲しい気持ちになりました。最初は先生がそのことに対してなにかきついことを言うのではないかと思っていたけれど、実際にはきぬ子の気持ちを受け止めて黙祷をしてくれたうえで、

「明日からは家に置いてきなさい、ご両親は、君の帰りを家で待っていてくださるよ、その方がいい。」といていた場面がすごく良かったです。私は勝手に昔の教師は生徒に対して強い態度を取っていると思っていたので、その先生はきぬ子と両親を考えて行動していて、心に残りました。

また、きぬ子は背中に原爆で飛んできたガラス片が入ったまま、大人になってもずっとそれを抱えて生きていました。それが戦争が終わってから数十年後になってようやく取り出されたということを知って、戦争はその時だけではなくてその後の人生にもずっと影響を残すのだと思いました。この話は特別派手な場面があるわけではないけれど、一人ひとりの言葉や思いが深く伝わる話だと思いました。この話を読んで、人の見えない部分にある痛みや記憶にも、もっと目向けられるようになりたいと思いました。

「元科学者の母」について

5年2組後藤 茜

母に聞いた理由は、科学者の話は、なかなか聞けないと思ったからです。わたしの母は、抗がん剤という、がんをおさえる薬を作っていました。他にも、花ふん症の薬とかぜ薬も作っていました。なぜ科学者になったのか聞くと、テレビに出てきた白衣にあこがれたかららしいです。母がいやだったのは、人からのプレッシャーと、危険物をあつかうことだと言っていました。やはり薬を作るのはむずかしかったと言っていました。母が頑張れた理由は、白衣を着てみたいというあこがれと、仲間がやさしかったからだそうです。母は、この仕事を10年間続けていました。わたしも母のように、あこがれをつかむために頑張りたいなと思いました。

◎8月23日 <投稿作品> 土曜パラダイスで紹介

小学4年1組	松田 幸大	「運動会 あと一ヶ月で 始まるよ」
	職員	「たまらない 大暑に食べる ハーゲンダッツ」
小学6年1組	町田ひなみ	「さいきは コロナ多過ぎ すこしやばい」
小学4年1組	山本 央理	「校長先生 ぼうずでも がんばれ」
小学6年1組	清水 彩加	「セミが鳴く なつのちゅうかん 夏至になる」
	職員	「学校だ 夏のさかりの 過ぎる頃」
小学6年1組	福原 みう	「妹が かわいすぎてて 天使かな」
	ダジャレコーナー	
小学3年2組	さとうはるま	「9円のパンをおとしたら もうくえん」
9年	はっとりせりか	「飲酒した アインシュタイン」
小学4年2組	遠山そうすけ	「あのほんだなは みほんだな」